

21 急性心筋梗塞来院で入院日翌日までのアスピリン投与率

指標の解説

- 急性心筋梗塞においては、血小板による血管閉塞及び心筋との需要供給関係の破綻、心筋のリモデリングが問題であり、過去の報告から抗血小板薬の投与が必須となっている。
- 過去の欧米のガイドラインにおいても、急性期におけるアスピリンの処方は、Class1となっている。
- これは心筋梗塞量の減少にかかわっているため、医療の質を示すのには適した指標と考えられる。

分子：入院初日又は入院日翌日までにアスピリンが処方されている症例数

分母：急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞で緊急入院した症例数

参考値：85.2%
 分子：分母のうち入院後二日以内にアスピリンが投与された患者数
 分母：急性心筋梗塞で入院した患者数
 (引用元：一般社団法人日本病院会作成「2015年度QIプロジェクト結果報告」参加病院の平均値)

